

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第 4 回検討委員会 議事要旨

【日時】 令和4年6月28日(火) 19:00~21:00

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

検討委員会委員(全9名)

所属/役名等	氏名(敬称略)
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
札幌駅前通まちづくり株式会社/ 統括マネージャー	内川 亜紀
北海道大学大学院工学研究院/教授	小澤 丈夫
北門信用金庫/篠路支店長	熊谷 和宏
株式会社アークス/ ゼネラルマネージャー代理	佐藤 直樹
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
北星学園大学 経済学部/教授	鈴木 克典
北海道旅客鉄道株式会社/ 総合企画本部 地域計画部 主幹	野澤 憲士
JAさっぽろ/篠路支店統括支店長	渡辺 直樹

※五十音順

オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	上口 敦史

事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	小仲 秀知
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	吉原 康次
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	平 将太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	金野 隼也

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会（挨拶、事務連絡）

2 議事（資料1）

- 前回の振り返り
 - 第3回検討委員会の報告（別紙1-1）
- まちづくり計画について
 - まちづくり計画（素案）（資料2）
- 地域主体のまちづくりについて
 - 次回の社会実験について
 - まちづくり計画策定後の展開について
 - 第4回地域協議会の報告（別紙1-2）

3 次回日程の案内など

【議事要旨】

1 はじめに

○ 開会（挨拶、事務連絡）

（事務局）

- ・新型コロナウイルス感染予防を行った上で、会場にて開催した。
- ・本日の会議は、予てから地域の方々から頂いたご意見を踏まえ、委員の皆様と議論させて頂いた内容を取りまとめ、まちづくり計画素案を作成した。皆様の忌憚ないご意見を頂きたい。

2 議事

○ 前回の振り返り

➤ 第3回検討委員会の報告

（事務局）

【資料1の4ページの説明】

- ・第3回検討委員会にて頂戴したご意見を別紙1-1に取りまとめ、いくつか抜粋してご紹介した。

【別紙1-1の説明】

- ・地域主体のまちづくり活動について、「地元の商店街が協力すれば集客力がもっと上がるのではないか」とのご意見を受け、今年の夏、開催予定の第2回シノロリビングは、地元の商店街を含めた地域の皆様との関わりしるを増やすことを目指し、協力を求めていくと回答した。
- ・駅前エリア、東エリアを含めた重点エリアについて、「東エリアの市有地を開発する際、広場をつくるなど色々な条件に合ったところに設計する考えはあるのか」との意見に対し、地域の皆様により良く利用できるよう、周辺環境との連携と調和、導入機能に応じて都市計画手続きや規制緩和の検討を進めつつ、広場や憩いの空間、イベントへの協力を見据え、それに合致する機能を誘致する展開を考えていると回答した。
- ・まちづくり計画全般については、計画案として、本計画が地域の想いを伝え、行政が事業者の力を引出していくために、これまで議論してきた「まちの方向性」、「市有地・駅前にまちづくりの展開」、「地域主体のまちづくり活動の展開の考え方」を取りまとめた。

○ まちづくり計画について

➤ まちづくり計画（素案）

（事務局）

【資料2の説明】

- ・計画書の素案について、地域協議会・検討委員会での議論をまとめ、本書と概要版を作成した。本書に関しては、計画書作成にあたり使用した、データ

や説明を全て掲載するもので、また、表紙には昨年度、篠路小学校の3年生に描いて頂いた「私たちが住みたい篠路のまち」の絵を掲載している。本日は、概要版の説明を行う。大きな構成として10項目あり、11と12項目は参考として、過去のワークショップや地域協議会・検討委員会などのご意見のまとめと、ワークショップやアンケートの集計したものを添付している。

- 「1. 背景と位置づけ、目的」について、篠路は札幌市内で17か所ある、地域交流拠点の1つに位置付けられており、行政機能や生活利便機能を集積し、北区北部3地区の生活を支える役割を担っている。現在、交通混雑解消のための鉄道高架事業に加え、土地区画整理事業や周辺道路の拡幅事業などの社会基盤整備を進めているが、東口駅前やコミュニティセンター周辺にある低未利用の市有地の活用が課題となっている。このまちづくり計画は、これまでのワークショップや地域アンケート、企業ヒアリング、地域協議会、検討委員会での議論を反映させ、「低未利用地の活用」と「土地利用と一体となる地域主体のまちづくり活動」について長期的な方向性や展開を取りまとめるものである。
- 「2. 重点エリアの設定」について、篠路駅周辺は、現在、土地区画整理事業が進行中であるなど、新たな土地利用が期待されるエリアであり、また、コミュニティセンター周辺の市有地A、B、Cは低未利用の市有地であり、有効な利活用が求められる地区である。2つのエリアを重点エリアとして設定し、まちづくりを進める上での特に重要なエリアとする。
- 「3. 篠路地区の現況等」について、地区にとってプラスとなるような項目については赤い丸、マイナス面として整理した項目については青い丸で示している。「①閑静な住宅街」については、篠路地区は9割以上が住宅、特に戸建て住宅が7割を超える住宅街である。また、「⑤子育て世代の流入」、「⑥高齢化の進行、若者の減少」について、右のグラフに示しているとおおり、子どもが生まれて家を買ひ、篠路に移り住む子育て世代の方の流入が多い一方で、進学や就職を機に篠路から他の地区や道外へ転出する若者が多いことや、高齢化が進み、老年人口割合が増加していく、といった特徴も見られる。また、「②豊かな地域資源」は、地域資源として、古くからの歴史がある篠路神社やレンガ倉庫などの建築物や、旧琴似川沿いの緑道、五ノ戸の森緑地などの自然、藍染、篠路歌舞伎などの文化が数多く残され継承されている。次の「③多様な団体による地域活動」が行われている一方で、「⑦駅前の生活利便施設・賑わいの不足」のおおり、駅前は閑散としていて寂しい、駅前の賑わいづくりや、交流できる施設が欲しいといったご意見がある。過去に行ったアンケートでは、買い物施設の充実、高齢者にとって優しいまちづくり、子育てしやすい環境づくり、地域の多様な世代が交流する場の創出、働く場の創出などを多くの方が望まれている。その他、企業ヒアリングや札幌市の上位計画を踏まえ、「①篠路を選んでくれる若い世代や高齢者にとって住みやすいまちづくりを進めていくこと」、「②日常的な地域コミュニティを強化すること」、「③地域交流拠点としての価値・魅力を向上させること」、

「④交流・にぎわいの場を創出すること」、「⑤地域資源を共有すること」この5つを課題として整理した。

- 「4. 検討過程・検討体制」について、平成28年～令和元年度にかけ、ワークショップやアンケート、駅前広場のあり方について検討会議が行われてきた。これらのご意見を基本とし、令和2年度から地域協議会、検討委員会を開催、今年度末の計画策定を予定している。また、将来のまちづくり活動を見据えた社会実験も並行して行う。
- 「5. まちづくり計画」について、平成28年度にワークショップで取りまとめた「みんなの想い」を基礎とし、まちづくり基本方針を整理した。「みんなの想い」で掲げた基本理念「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」と「目指すまちの将来像」の「暮らし」、「つなぎ」、「魅力」をベースにエリアの方向性をまとめている。将来を見据えると、篠路地区を含めた日本全体の人口減少が予測されており、数十年先を見据えた方向性を考えることが重要である。人口減少は、生活関連サービスの縮小などによる生活利便性の低下、住民組織の担い手不足による、地域コミュニティの低下などが懸念され、さらなる人口減少を招く悪循環も想定される。したがって、「目指すまちの将来像」の、「暮らし」、「つなぎ」、「魅力」、それぞれのまちづくり効果によって、「人口減少局面でも豊かで持続的なまち」と「地域の魅力・コミュニティが発展するまち」を達成することが重要と考える。エリア全体の方向性として、「広域的に機能をバランスよく配置し、東西一体の拠点形成」、「社会基盤整備による東西市街地の回遊性の向上」を掲げている。駅前エリアは「暮らしに必要な機能と、人々の交流機能により魅力的な駅前を演出」、東エリアについては、「多様な機能の集積により人々が活動し、地域の活力源となるエリア」を目指す方向性とした。
- 「6. まちづくりの協働の考え方」について、まちづくりは行政だけの取組ではなく、地域の方や企業など様々な立場の関係者が協働で取り組むものである。地域住民の方には、「様々な場所・アイデアで地域の魅力を高める活動・取組を展開していくこと」が期待される。今後、整備される駅前や市有地の開発により、創出される空間も最大限に活用したい。また、今後人口減少や少子高齢化が進んでいく中、建設資材、燃料費、人件費の高騰や新型コロナウイルスの影響など、時代の変化や厳しい財政状況の中、民間の活力を利用することにより、サービス向上やコスト縮減を図り、効果的にまちづくりを進めていくことが重要である。民間企業などの事業者には、地域の皆様のご意見を踏まえた土地利用の方向性を共有し、企業の強み、ノウハウを活かしながら具体化を進めていく。行政では、社会基盤を進めると共に、民間企業などとまちづくり計画を共有しながら、市有地・駅前の具体化を進め、地域の活動、取組を支援していく。このように3者の連携により、目指すべき将来像の実現を図る。
- 「7. 土地利用計画図」について、目指すべきまちの将来像を具体的に示した図となる。重点エリアの方向性をコンセプトとし、中心となる機能、望まし

い機能例、展開方針などをまとめた。駅前街区については、生活利便性を向上する商業機能、地域コミュニティの拠点となる交流機能が望ましいと考える。具体的には日常の買い物施設や、飲食店、多世代が集まり交流できるようなコミュニティスペースなどが望ましい。駅前街区の多くは民有地であるため、地権者様とまちづくり計画を共有し、連携しながら、生活利便機能や交流機能の導入を検討していきたいと考え、また、東エリアについては、まちに活力を生む業務・教育機能や、家族で利用できる商業機能が望ましいと考えている。篠路は昼間の人口が少なく、通勤・通学で地区外へ出ていく人が多いというデータがある。若い世代や就労者を地域に呼び込めることができれば、関係人口が増え、日中の活動が増えることで地域の活性化につながるができる。休日などに家族で利用できる商業・レジャー機能や子育て世代が交流できる機能なども、人口流入や地域の活力につながる。なお、市有地Aの周辺は福祉施設が既に立地しており、機能の誘致にあたっては、周辺環境に配慮する。市有地の利活用に関しては、比較的自由度が高いため、地区の関係人口、定住人口増加につながる利活用を、民間活力などを導入しながら展開していくことや、地域交流拠点にふさわしい公共貢献を誘導していきたい。

- 「8. 北区北部3地区の地域交流拠点の役割」について、今後、団塊世代が全て75歳以上の後期高齢者となり、人口の年齢別比率が劇的に変化する分岐点となる2025年を迎える。後期高齢者の増加や運転免許返納者の増加が予測される中、公共交通によるアクセス性の確保が重要となる。拓北・あいの里や太平百合が原地区と公共交通でつながる3つの地区へのバランス良い機能の集積、また、鉄道高架・道路のバリアフリー化による、東西市街地の移動円滑化は、篠路にとってだけでなく、北区北部地区にとって持続可能なまちづくりに資するものとなる。これらによって、歩いて暮らせるまちの形成につながり、子育て世代や高齢者にとっても魅力アップにつながると考える。
- 「9. 地域主体のまちづくり活動について、新しく整備される駅前や市有地を作って終わりとするのではなく、将来の地域活動、交流・賑わいの場として活用して頂きたいと考えている。活動の方針として3つ掲げており、「1. 多世代が交流する笑顔あふれるコミュニティを創出する」、「2. 歴史、文化、自然を有効活用する」、「3. 持続できるまちづくり体制を構築する」である。具体的なイメージを写真で掲載している。このような取組を社会実験を通じながら、将来の活動につなげていきたいと思います。
- 「10. まちづくりの展開・土地利用の展開」について、まちづくり計画の策定後はまず、早期に活用可能な、市有地A・Cの具体化を先行する。市有地A・Cでは関係人口の増加や活動の増加といった、地区のポテンシャル向上につながる利活用を目指し、次に、社会基盤整備の進捗や効果を見極めつつ、現在の利用状況を踏まえて、駅前街区・市有地Bの具体化を進め、さらに周辺への波及を目指す。このように、開発を一気に進めるのではなく、段

階的に進めていくことが重要と考えている。

<質疑応答>

(委員)

- 資料 2 に内容について、これまでに議論をまとめていただいたと思うが、「3. 篠路地区の現況等」内の課題の 5 項目は、「課題」ではなく「期待されるべきこと」の内容になっているので、「課題」の内容にした方が良い。また、「5. まちづくり計画」と重複するところがある。本書 41 ページに現況課題の強みと弱みが提示されている。その内容が課題 5 項目となると思うので、もう少し記載の仕方を工夫した方が良い。

(事務局)

- 言葉として詰込み過ぎている部分もあり、分かりづらく、期待される項目を交ざっていた。初めて見る方にも分かりやすい表現、適切な言葉の選び方などに注意して修正する。

(委員)

- 概要版「7. 土地利用計画図」は、本書 53 ページ「まちづくり方針図」と 65 ページの記載内容を合わせたものか。

(事務局)

- 本書 53 ページと 65 ページの内容をまとめ、表現したものを概要版にしている。

(委員)

- 本書の「第 3 章 まちづくり基本方針」、「第 4 章 将来像の実現」について、「第 3 章 まちづくり基本方針」は基本の骨格で、「第 4 章 将来像の実現」は、事案などを載せ、それがまちづくり計画となっている「7. 土地利用計画図」の構成がわかるよう記載した方が良い。

(事務局)

- 報告書に記載する際、ページを分け誤解が生じないようにする。

(委員)

- 駅前顔づくりで、西側に道路ができたが、賑わいがなく、東側もこのままでいけば、同様に賑わいが無い可能性がある。賑わいをつくるために、商店街を形成していかないと賑わいづくりはできないと思う。

(事務局)

- 概要版「7. 土地利用計画図」の左下に駅前地区の目指すべき姿、望ましい機能として記載している買物施設や商業施設などといった機能が加われば、

賑わいの場がつかれるかと思う。まちづくり計画策定後は、地権者さんと共有しつつ、そういった機能を導入できるような整備、建物に導いていけるような議論を進めていきたいと考えている。東側で賑わいの場をつくり、西側も賑わいの場になるように目指したい。

○ 地域主体のまちづくりについて

➤ 次回の社会実験について

(事務局)

【資料1の12ページの説明】

- ・篠路駅前に広場をつくる社会実験 v o 1.2「シノロリビング2022 新しいシノロの日常をつくる」を昨年に引き続き実施する。主催は札幌市、期間は8月25日(木)～28日(日)までの4日間開催する。開催場所に関しては、篠路駅東口駅前である。開催場所について、再確認させていただきたい。JR篠路駅から南に向かった場所となり、西側については、三角地である。東側は、四角い空間となる。

【資料1の13ページの説明】

- ・シノロリビングを実施する背景について、まず、「地域協議会、検討委員会の中で「居場所づくり、コミュニティづくり、少しずつ街を変えていく仕組み」これに関する必要性というものをご意見」として頂戴している。シノロリビングとは、地域の方々からご意見のあった場の「使い方」のアイデアについて試行的に実施し、場づくりへ反映させるための空間利用の需要や可能性の検証する「社会実験」である。

【資料1の14ページの説明】

- ・社会実験「シノロリビング」には2つの目的がある。1つ目が「街の「居場所」の可能性を探る」である。誰もが憩い、集い、活動できる場の必要性・可能性やその空間のあり方の検討を基礎資料とする。2つ目が「地域の「コミュニティ」の可能性を探る」。こういった社会実験の中で、地域活動・アクティビティを「可視化」すると共に地域協働の可能性や篠路駅周辺地区でまちづくり活動している組織・団体やお住いの方同士がつながり連携するためのコミュニティのあり方検討の基礎資料とする。本社会実験は単なるイベントとは異なり、今後の篠路駅周辺の空間整備や地域のコミュニティ活動発展的に社会実験を積み重ねていくことを想定したものである。回数を重ねるごとに多くの方との連携が深まり、篠路駅周辺をより良いまちづくりが展開されていくことを期待して「スモールスタート(小さいことから始めよう)」という意識のもと企画・開催する。

【資料1の15ページの説明】

- ・昨年8日間開催し、合計で400人の利用があった。芝生や椅子、テーブル、ベンチなどの憩いの場を整備し、アカプラに出店しているようなキッチンカーを誘致したところ、キッチンカーの来た休日昼間、主に子育て世代を中心とした利用が確認できた。一方、使われていない時間、世代の需要の検証や

より多くの機能を確認すること、また、地域との関わりしるを増やすことが課題として残った。今年度のシノロリビングの取組として、地域からのご意見を踏まえ、まちづくり計画の将来像・地域活動の展開方針、敷地の規模などの要件から実施できるものを抽出したいと考えている。例えば、前回の協議会では「もう少し地域の方に協力してもらった方が良い」、「飲食を楽しみながら、地元の子どもの活動発表」や「地域文化的な催し」、「篠路の野菜販売」などのご意見を頂いた。今年度の8月にシノロリビングを開催するが、前回と同様の憩いの場のあり方を季節を変えて検証するほか、実施できる取組や地域の関わりしるを増やした形で行えるよう企画検討を進めていく。

【資料1の16ページの説明】

- ・第2回シノロリビングの考え方、「まちづくりワークショップや地域協議会・検討委員会、昨年の実験で得られたアンケートを基に実施できるものを抽出していく」。第2回シノロリビングとしては、「実施する取組や地域の関わりしるを増やす」中で、夏季の実施や社会実験で取り組むコンテンツの拡大、子どもから高齢者まで多世代が交流できること、地域連携などを進めていきたい。「基本的な機能をくつろぎの場（芝生など）やキッチンカー、トークイベントなどの交流の機会の継続」、「地域活動の情報発信の継続」、「物販として（マルシェや地域出店など）の実施」、「地域文化の伝承の機会の創出」、「遊び・運動・活動の場の創出」といったものをポイントとして抑える。

【資料1の17ページの説明】

- ・検討しているコンテンツのイメージについて、まず、広場空間は昨年度と同様に芝生やベンチなどで憩いの場をつくるほか、何かしらの発表ができる空間の整備を検討。配置や展開方法は調整中だが、昨年度から引続き北海道大学 小澤教授の研究室と連携した組立和室を設置したいと考えている。また、多世代との交流を念頭の上、地域出店、マルシェ、移動図書館の出店を検討しており、コンテンツの強化を考えている。
- ・レイアウトとして、三角形の広場には、芝生広場を囲うように組立和室やキッチンカー、ファニーチャの設置、四角形の広場（東エリア）は、テーブルや椅子でワークショップなどを取り組むことができるようにし、発表関係が行える小ステージの配置を検討している。

<質疑応答>

(委員)

- ・シノロリビングに商店街が協力することのことで、商店街内で会議を行い、4日間全てに参加することは難しいが、8月27日（土）の夜なら問題ないと了解を得た。商店街でお祭りを開催すると、約1000人来場するため、テーブル100台、椅子50脚用意している。シノロリビング開催場所にテーブルや椅子を設置する場合、集客人数としては、50～60人程だと思う。倉庫などを開放して、開催場所を広げることにはできないのか。

- ・ 去年実施したシノロリビングの集客データを取っていると思うが、用意する食材などの関係もあり、土日の集客データを知りたい。

(事務局)

- ・ 開催場所について、今、目指しているものは、篠路駅前に日常的な賑わいである。年に 1 回開催する盛大イベントというよりは、日常的に人が集まるという場を目指している。例えば、商店街祭のような盛大なイベントを毎週行うことは難しいため、日常使いという視点で実験規模を考えていることを了解頂きたい。
- ・ 去年の土曜日の数値に関して、約 150 人かと思われるが、後ほど確認し、委員の皆様に伝える。

(委員)

- ・ シノロリビングについて、今回行う実験が「まちづくり方針図(本書 53 ページ)」に書いてある駅前広場に求められる役割となっている地域のコミュニティ形成を寄与する共有空間をつくるための実験との認識で良いか。
- ・ 去年のシノロリビングは、札幌市がコンテンツを集めたが、今年は現在、篠路で活動されている「まちづくり活動」を駅前の社会実験の場に集め、「まちづくり活動」のショーケースのような形で展開されるのか。

(事務局)

- ・ まちづくり計画に記載されてある方向性との整合性に関しては、ご意見のとおりである。
- ・ 今回、地域の方と連携していくこと、ゼロから進めているため、実際に行い皆様に見てもらうことが大事だと考えている。ショーケースのような色んな取組を皆様と一緒にいき、知ってもらうことで、社会実験としての目的が達成できると考えている。

(委員)

- ・ 将来的にシノロリビングを続けていきながら、他の場所や市有地も今後、使用すると思うが、「まちづくり活動」が見える化していくところを俯瞰できたら良いと思う。

(委員)

- ・ 前回のシノロリビングに参加し、地域の方とまちづくりに関して情報共有させていただいた。今回のコンセプトでもある、日常生活(リビングのような空間)のイメージがあり、非常に心地良い空間で、快適、くつろぎを感じることができた。今回、そういった意味で、ワークショップやランタン、藍染めなどのコンテンツが素晴らしい。特に子ども向けのワークショップが良いので、是非実現させて欲しい。子どもたちと交流するところで、まちが明る

くなり、活気をもたらすと思う。若い世代を巻き込むことも鍵になる。篠路の10年、20年、30年先の姿を見据え、暮らしたすいまち、賑わいのある活動施設など目指しているため、そういった時代を担う若い世代に参加頂き、意見やアイデアを頂戴したい。なお、多世代に渡り、地域の方のご意見もいただき情報共有し、篠路のまちを育てたい。そのためには、テーマが重要であると考え、篠路の特長でもある、自然や文化など地域の方の視点、若い世代の視点で篠路地区に必要なアイデアを出せる空間、シノロリビングに参加したいと思える空間づくりが大切だと思う。また、日常的にシノロリビングを開催するのであれば、そういった空間も含め、好きに来ていただき意見交換などができる空間があれば面白い。

➤ まちづくり計画策定後の展開について

(事務局)

【資料1の20ページの説明】

- まちづくり計画の位置づけ、地域主体のまちづくり活動には、学生、子育て世代、アクティブシニア、現在活動している方、新たな担い手などの多様な担い手、多様なアイデアが必要であり、現在活動している方々に加え新たな担い手の発掘を目指しつつ、活動を行いやすいまちづくりの体制や担い手が活動しやすい体制を目指していくことが位置づけられている。

【資料1の21ページの説明】

- 官民連携のまちづくりの取組として、例えば「シノロリビング」を地域協議会と連携しながら行っている。この地域協議会はまちづくり計画を策定する役割を終えると解散するため、次回の地域協議会を最後に、この地区のまちづくりで連携していく地域組織がなくなる。まちづくり計画に位置づけている目指す姿を実現するため、また、篠路を地域にとってより良いまちに育てていくため、地域とまちづくりの関わり方を検討、具体化することが課題となっている。

【資料1の22ページの説明】

- 第4回地域協議会では、「地域のまちづくりへの関わり方」について、3班に分かれ、意見交換を行った。その結果を別紙1-2にまとめている。

➤ 第4回地域協議会の報告

【別紙1-2の説明】

- 1班からは、「社会実験やまちづくりを進める具体的な目的をまとめるべき、そのために更なる課題や問題点の抽出が必要」、「既存の組織から代表を選出した新たな組織が必要で、その中でお互いが抱える課題や悩みを話し合い、地域全体で目的を明確化することが重要」とのご意見をいただいた。
- 2班では、「特定の事業者や建物だけでなく、空間全体をエリア全体でプロデュースする仕組みが必要で、そこは地域の人々がしっかり関わるべき」、「シノロリビングについても、単に場をつくるだけでなく、地域が入り込むき

かけに利用した方が良い、また、関わりたいと思う若い人も関わられる場にしていけると良い」、「シノロリビングを地域交流の場にしていく、次のステージにつながる場にしていくには、地域協議会2.0が引続きあり、企画を出し合える場が必要」とのご意見をいただいた。また、「漠然とまちづくりではなく、テーマを明確に決めて集まるきっかけをつくる方が良い」、「集まるかどうかの検証もしやすい」などのアイデアもいただいた。

- 3班からは、「地域協議会の場にはいない若い世代の意見を積極的に入れていくべきで、意見が出やすい場づくりが必要だが、参加にはハードルがあるので行政のフォローもあった方が良い」、「今後も子育て世代は篠路に住んでいく方々なのでPTAなどとの連携が重要である一方、今活動している組織と連携していくこと、交流できる意見交換の場が必要」とのご意見をいただいた。また、シノロリビングについては、「地域の自主性がキーワードで地域の方々が盛り上げることを行うことが成功体験につながる、シノロリビングといった機会を活用しながら、若い世代などから出たご意見や取組を実施していけると良い」、「また、ハード整備が進んでいない場所には、シノロリビングでの取組を空間づくりに落とししていくことができる」とのご意見もいただいた。
- まとめとして、篠路には多様な組織による地域活動が行われており、そうした活動を駅前につなげていくとエリア価値が高いまちになる。加えて、この場にはいない方々をしっかりと巻き込む機会が必要であり、また、シノロリビングが人づくり・まちづくりのきっかけとなり、活用していくべきである。それを通じてまちづくり計画に位置づけているハード整備が進んでいく中、篠路を担えるまちづくり・人づくりにつながると良い。こうしたことが意見交換のポイントだと考えている。

【資料1の23ページの説明】

- 地域協議会が終わった後、地域が関わる場を展開していくことが必要だと考える。これまでのご意見で「コロナ禍の中、縁遠くなった」や「地域協議会という場でこれまで同じ地域の方と話合える、出会える場が少なかった」、「地域協議会の場など色々な方々と一度に会える機会、そういったものが非常に必要である」とのご意見を多数いただいた。気軽に話合える場、色々な方が参加できる場が重要であることに改めて気付けた。
- 地域の活動について、「何かテーマを持ったアクションや今ある活動を更に広げていくような機会」、特に前回の地域協議会では、事務局側として、シノロリビングを通じて、徐々に地域の方との関わりしるを増やしていきたいと考えていたが、「もっと自分たちにも任せて良い」というニュアンスのご意見を頂いた。
- 色々な意見を出し合う場、活動する場、これらを上手く使う。また、重要なことは人づくりである、「人と人の関係づくりしっかり調整していく。そういった機会を篠路駅前のまちづくりと合わせて、調整していく必要がある」とのご意見もいただいた。

<質疑応答>

(委員)

- 厚別区役所の前にはふれあい広場があり、当初はクリーンアップクラブで清掃関係の活動をしていた。その後、スノーキャンドルのイベントを開催したりし、活動が発展していった。人が集うようなイベントを実施したいとのことで、新さっぽろ冬まつりを開催。クリーンアップから始まり、新さっぽろ冬まつりと機能が増えていき、その過程には若い人たちが活動を行っていた。また、新さっぽろ冬まつりには実行委員会があり、大学関係者や区の担当の方が入っていた。実行委員会という大きな枠組みのみ行い、企画会議については、若い世代や活動的な方にお任せし、自由に発言できる場をつくりアイデアを頂戴した。若い世代が自由にアイデアを出せる場と会議を行う場の2体制で動くことも良いと思う。

(委員)

- JRを利用する方の意見・アンケートが足りない。JRを利用する方は基本、徒歩か自転車しかなく、交通機関がないため、JRに乗り継ぐ人が殆どいない状態である。賑わいのあるまち、駅周辺を活性化させたいのであれば、交通機関を充実させないと人が集まらない。将来を見据えて、交通機関の充実が必要である。

(事務局)

- 駅周辺を含め整備し、人が集うようになれば交通整備も必要となる。シノロリビングなどの活動を通じて、人が集うようになり、需要があれば、タクシー会社やバス会社などの交通機関も充実していこう。また、新しい技術(自動運転など)も増えているので、そういったところを見据えながら、考えていけたら良い。

(委員)

- 令和5年以降は、シノロリビングは実施しない方向なのか。

(事務局)

- 確実なことは言えないが、皆様からのご意見、計画をまとめ、令和5年以降も継続できるようにしていきたい。

(委員)

- まちづくり計画の方向性が見えたらシノロリビングを辞めると、地域の方に色々誤解される可能性があるため、篠路地域のイベントとして、継続した方が良い。地域の方や業者の支援を頂ければ、継続することは可能かと考える。また、コロナウィルスの関係もあり、3年程、お祭りなど目立つ行事を

行えなかったため、今年開催されるシノロリビングは地域の方に喜んで頂けると思う。

- シノロリビングの内容について、篠路には歴史あるものとして、歌舞伎や阿波おどりがあある。篠路地域でも歴史あるものとして有名のため入れて頂きたい。入れていただければ、今後の地域イベントとして、地域の活性化につながる。

(委員)

- シノロリビングは篠路地区のまちづくりや将来像に向けての核となる。場所の関係もあるが、歌舞伎や阿波おどりの提案を頂いたので、検討していただきたい。

(委員)

- 駅前を公園と言っていたが、広場である。公園と定義すると、利用するにあたって、規制(車の運転や火の扱いなど)がかかる。キッチンカーなどが入れられる空間にして欲しい。

(事務局)

- どういう形で実現するかは、議論させて頂くが、公園の形ではなく、色々自由に使えるものを目指したい。

(委員)

- シノロリビングを継続していくことが大事である。継続することで定着し、それをきっかけに地域の方と交流や意見交換をしていく。シノロリビングを継続することが前提として、第1回、第2回の開催場所は同じだが、場所を変更しながら実施しても良いと思う。アクセスする方が、必ずしも電車を利用するわけではない、人が集まりやすい場所があるかも知れない。季節や場所を変えることで、人や集まり方に違いが生じる可能性がある。なお、開催場所を変更することで、ワークショップやキッチンカーなどの内容も変わってくると思う。そういったものが見えるかも知れない。
- 都市公園の使い方について、今まで規制が厳し過ぎることに関し、シノロリビングを通じて、行政と地域が話し合いながらできれば良いと考える。

(委員)

- 鉄道高架が完成してから本格的にまちづくりが機能していくと考えていた。実際の例として、南武線 稲荷長沼駅(東京都稲城市)には、くらすクラスがあり、人工芝の敷設や、イベント開催でまちの方が集まるような場がある。京都でも、阪急 洛西口では、T a u Tという高架下でイベントを開催し、賑わいを創出している。篠路においては、人々が集まる賑わいよりもくつろぎが重要とかんじている。また、広場に関して、札幌市の豊平駅前、若い

世代を入れて、ワークショップや実証実験を繰返して駅前広場ができています。豊平川では、焚き火やバーベキューもできる。この辺も参考になると思う。

(委員)

- 前回、地域協議会のワークショップで、「新たな組織が必要」というご意見が多く、気軽に話合える場、活動することによる人と人のつながり、そういったサイクルができています。地元の方のみで運営することはハードルが高いと感じるため、初めは引っ張っていく誰かが必要である。理想として、自走が可能になるまでは、札幌市が入った方がよい。将来的には、気軽に話合える場、地域協議会のような地域の方が集う場が必要。まちづくり計画にPDCAサイクルを記載しているが、それを確認する場が、地域の方が集う場になるかと思う。今年、シノロリビングを実施するので、コミュニティづくりも含めた実験にしていきたい。

(委員)

- 駅の高架について、駅がどの程度の規模でできているのか、高架になることによって、下の遊休スペースが、道路として東西とつながるのか、道路つながらない場合、有効的に活用するため無償で地域の活動に活用させていただけるのか確認したい。
- 本書 20ページに篠路駅周辺地区の活動団体が記載してある。色々企画をされて活動していると思うが、どのような活動団体であるか、地域を盛り上げたい方のため、今後、シノロリビングを継続していくのであれば、地域活動している方を参加させ、活動していけば良いと思う。

(事務局)

- 高架下の利用について、道路が全てつながるわけではなく、人が歩きやすい状態の空間にしていく。
- 高架下の活動について、札幌市とJRで話し合いをした上で、地域の皆様のご意向を踏まえ検討を進めていく。

3 次回日程の案内など

(事務局)

- 本日もいただいたご意見を基に課題などを整理した上で、庁内で議論し、秋頃を予定している地域協議会にて庁内で議論したものと皆様からいただいたご意見を踏まえ、パブリックコメントにてご意見をいただく。それらをまとめたものを第5回地域協議会にて皆様にお示しする予定。また、今後のまちづくり計画の進め方や地域主体のまちづくり活動の進め方についても併せて議論をする。本日の議論結果については、町内会の回覧で皆様に配布させていただきます。予定である。